

我が校の強み弱み分析・評価シート

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

教科に関する調査では、国語・算数・理科、いずれの教科も全国・滋賀県の平均正答率を下回る結果となりました。記述式の問題では、無解答率が全国平均や県平均を上回っており、自分の考えを文章で表現することに課題が見られます。児童質問紙調査では、「学校に行くのは楽しいと思うか」「人の役に立つ人間になりたいと思うか」「理科の勉強が好きか」などの項目で、肯定的な回答の割合が全国・滋賀県よりも高くなっています。

《強み・弱み》

【国語】

「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使えるか」をみる問題は、比較的正答率が高くなりました。一方、「図表などを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるか」をみる問題では、全国・滋賀県の正答率より低く、言葉と図を用いて自分の考えが伝わるように工夫する力に課題がみられました。また、学習に対する意識が3教科の中で一番低くなっています。

【算数】

「簡単な表から条件に合った項目を選ぶ」「はかりの目盛りを読む」「台形の性質を理解する」「数の相対的な大きさについて理解する」などの基礎的な知識・技能が習得できています。一方、単位数に着目して計算の仕方を考える問題では、正答率が低く、無回答率も高くなりました。形式的に計算できても、計算の仕方を説明する力に課題がみられました。

【理科】

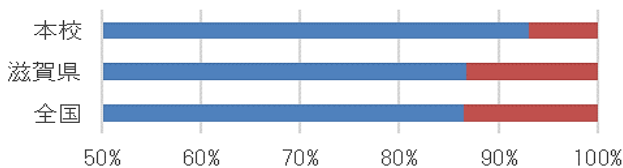
「乾電池2個のつなぎ方の特徴を理解する」「顕微鏡を操作する」「温度による水の変化を理解する」などの知識・技能が習得できているかをみる問題では、滋賀県の正答率を上回りました。一方、実験の結果を基に新たに見つけ出した問題を表現する力や、実験結果を基に考察する際、結論の根拠は何かを説明する力に課題がみられました。

《児童質問紙》

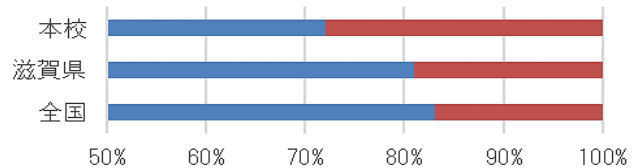
■ 肯定的な回答 ■ 肯定的でない回答

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。

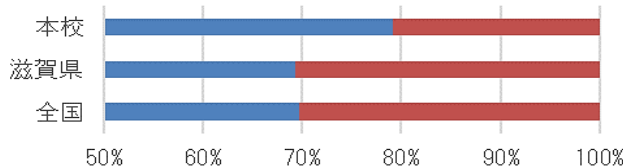
学校に行くのは楽しいと思いますか



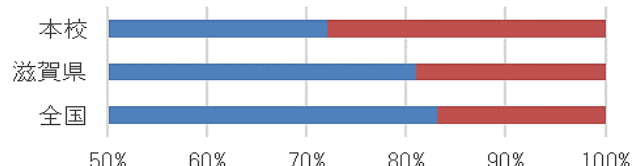
将来の夢や目標を持っていますか



読書は好きですか



分からないことやわくわく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



【指導の充実に向けて】

- ・クラスが変わっても、先生が変わっても、安心して学習に向かうことができるよう、学ぶ力を支える学習環境を整えます。また、「めあて」と「ふりかえり」を大切にし、見通しをもって学習に取り組むことができるような授業づくりをします。
- ・漢字や計算といった基礎基本の定着を図るため、「ICT」を効果的に活用します。
- ・ペア学習やグループ学習を積極的に授業に取り入れます。コミュニケーション能力の向上だけでなく、友達とのよりよい関わり方を学ぶ機会とし、学級への所属感・安心感・支持的雰囲気が高めることを目指します。また、少人数での活動の中で、自分の考えを言葉で伝えたり書いたりする経験を積み重ねていきます。
- ・児童の実態に合わせて、学ぶことへの楽しさを感じられるような指導の工夫をします。それと同時に、実生活に生かすことができる力をつけ、社会に通用する人材の育成を目指します。